

箴言4-7章「義人の道」

1A いのちと栄光の道 4

1B 良い教訓 1-9

2B 正しい道筋 10-19

3B 全人の心遣い 20-27

2A 他国の女 5

1B 苦み 1-6

2B 損失 7-14

3B 祝福された泉 15-23

3A 主の心がけておられる問題 6

1B 保証人 1-5

2B 怠惰な者 6-11

3B 争いを引き起こす者 12-19

4B 姦淫の代償 20-35

4A 言葉巧みな女 7

1B 知恵への親しみ 1-5

2B よみへの道 6-27

本文

箴言4章をお開きください。私たちは前回、箴言が知恵を主題とすることを学びました。主を恐れることこそが知恵であり、ゆえにそれは自分の悟りに頼らない、子が父の訓戒を聞くようなものであることを知りました。私たちは、自分で感じて、納得して、それで理解して、行動に移せると思います。けれども、そこには神の知恵はありません。神の知恵は、聞いたことを受け入れて、それを心に留め、従順に従うとき、初めてこれは平和な道、いのちの道であることを知るようになる、というものです。徹底的に主に拠り頼む、自分の悟りを神に明け渡す中で得られる幸いの道です。

そして4章から読むところに数多く出てくるのは、「見知らぬ女」のことです。神からの賜物である性に関する事、そこにある尊厳を保ち、いのちを得ることについて学んでいきます。

1A いのちと栄光の道 4

1B 良い教訓 1-9

4:1 子どもらよ。父の訓戒に聞き従い、悟りを得るように心がけよ。4:2 私は良い教訓をあなたがたに授けるからだ。私のおしえを捨ててはならない。

ソロモンは、この箴言を「わが子よ」という呼びかけによって始めていることを話しました。ただ、

ここでは「子どもらよ」と、他の息子たちにも語りかけています。そして、これは「良い教訓」だと言っています。主が良い方であられ、主の与えられる戒めは良いものです。私たちに益をもたらすもの、最善を与えるものです。与えられる時は自分では理解できないもの、聞くのに耳が痛いもの、時に悲しまなければいけないものですが、それは私たちの最善を考えてのことです。

4:3 私が、私の父には、子であり、私の母にとっては、おとなしいひとり子であったとき、4:4 父は私を教えて言った。「私のことばを心に留め、私の命令を守って、生きよ。4:5 知恵を得よ。悟りを得よ。忘れてはならない。私の口の授けたことばからそれてはならない。4:6 知恵を捨てるな。それがあなたを守る。これを愛せ。これがあなたを保つ。

ソロモンは、今、父として息子たちに教えています。彼自身が父と母から教えを受けたことを話しています。自分のことを「おとなしいひとり子」と呼んでいます。父ダビデは勇士であり、男らしさ、勇ましさを持っていたのに対し、ソロモンはちょっとひ弱でした。ダビデがこの世を去る前、ソロモンに、「強く、男らしくありなさい。(1列王 2:2)」と言いました。

ダビデは、自分の息子たちに歯向かわれた人生を送りました。アブシャロムによって一時期エルサレムを追われ、アドニヤによって、ソロモンへの王位継承を危ぶまれました。アドニヤが野心を抱き王になろうとした理由が、列王記第一1章6節に書いてあります。「彼の父は存命中、『あなたは どうしてこんなことをしたのか。』と言って、彼のことで心を痛めたことがなかった。そのうえ、彼は非常な美男子で、アブシャロムの次に生まれた子であった。」このように子供を主にあって訓戒し訓練しなかったことで、ダビデは大きな教訓を学びました。それで彼はソロモンにはしっかりと教えたようです。

ダビデはソロモンに、「知恵を得よ」と言いました。そして、「知恵を捨てるな」と言いました。すなわち心から受け入れて、受け入れたらそれをしっかりと握りしめていなさい、ということです。受け入れても、いつの間にか手放していることが私たちにしばしば起こります。受け入れたら、それをしっかりと守り、実践していくところまでが目標です。

4:7 知恵の初めに、知恵を得よ。あなたのすべての財産をかけて、悟りを得よ。4:8 それを尊べ。そうすれば、それはあなたを高めてくれる。それを抱きしめると、それはあなたに誉れを与える。4:9 それはあなたの頭に美しい花輪を与え、光栄の冠をあなたに授けよう。」

知恵を得るために、すべての財産をかけるに値するということです。財産というのは、全能に近い力を持っています。金によって、人々の心は動きます。したがって、自分の財産をどこに使っているかによって、その人の心がどこにあるのかを知ることができます。イエス様が、天に宝を蓄えなさいと言われたように、神の国のために費やすのです。

そして、知恵を人格のある者としてソロモンは語っています。この人格のある者は女性形の名詞になっており、英訳では she、彼女と訳されています。つまり、自分の連れ合いの彼女のように、その彼女のために財産をつぎ込み、そして彼女を愛して抱きしめます。後で、見知らぬ女が登場しますが、そのことをそうした女に行えば、財産を失い、尊厳もすべて失いますが、知恵という女の場合はその反対です。誉れ、尊厳を与えてくれます。そして、麗しい花輪、すなわち恵みを与えてくれます。それから、栄光の冠、栄誉も与えてくれます。

こうしてソロモンは、父ダビデから教えられたことに基づいて、息子に教えています。私たちは、自分独りではないのです。いつまでも、自分が小さき者だと思っていけません。大きな体をして、心が子供のままではいけないのです。「強く、男らしくありなさい。」とダビデがソロモンに言ったように、しっかりと主にあって立って、主に任されたことをしっかりと果たしていくのです。私たちは子供であるときは、その願いが自己中心です。自分がどう生かされて、自分がどう高められるのか、自分のことについて関心があります。これは、子供として健全です。けれども、いつまでも子供ではありません。大きくなります、すると親は、もっと小さい子供たちを大きな子供たちに任せるようになります。そして、自分のことよりも、全体のこと、全ての人の益になることを選び取るように成長し、成熟するのです。

2B 正しい道筋 10-19

4:10 わが子よ。聞け。私の言うことを受け入れよ。そうすれば、あなたのいのちの年は多くなる。
4:11 私は知恵の道をあなたに教え、正しい道筋にあなたを導いた。4:12 あなたが歩むとき、その歩みは妨げられず、走るときにも、つまづくことはない。4:13 訓戒を堅く握って、手放すな。それを見守れ。それはあなたのいのちだから。

ソロモンは再び、おそらくレハブアムに対して語っています。十戒の約束にあるように、父母を敬えば、その齢が長くなります。自分の愚かさによって、災いが増えて命が短くなることが少なくなります。

そして、「知恵の道」というように、道筋を主が備えてくださいます。前回の学びで、「3:6 あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」とありました。主にその知恵を受け、それを守っていれば、主が必ずその道を備えてくださり、守ってくださるのです。見てください、歩く時も、走る時も、つまづくことはありません。私のところに、みなさんが、しばしば相談に来てくださいますね。職場について、家庭の中のことについて、主の導きを質問しておられます。そこで、自分の予測していなかったことが起こることがあります。ですから、順調に歩いている時もあれば、急いで走らなければいけない時など、どちらもあります。けれども、知恵を固く握りしていれば、決してつまづくことはないのです。この約束を信じて励ましを受けてください。

4:14 悪者どもの道にはいるな。悪人たちの道を歩むな。4:15 それを無視せよ。そこを通るな。そ

れを避けて通れ。4:16 彼らは悪を行なわなければ、眠ることができず、人をつまずかせなければ、眠りが得られない。4:17 彼らは不義のパンを食べ、暴虐の酒を飲むからだ。

前回の学びでは、「罪人たちがあなたを惑わしても、彼らに従ってはならない。(1:10)」とありました。これが悪者どもの道です。おそらく、若い奴らが悪さをして、盗みを働き、また人々に危害を与えながら生活していたのが横行していたのでしょう。その仲間に入ってはいけないという戒めを、ソロモンはしていました。

ここでは、「それを無視せよ。そこを通るな。それを避けて通れ。」という強い戒めとなっています。悪者の道で最もしてはいけないことは、「語り返す」ことです。何か、相手が語りかけているのだから、それに返答しなければ失礼であると思うのです。しかし、オレオレ詐欺みたいな語りかけに対して、いかがでしょうか、真面目に応答していくことは良いことでしょうか？いいえ、むしろ主は、「無視しろ」と言っています。これが悪魔の常套手段であり、蛇はエバに対して語りかけ、エバが語り返すように唆し、エバはそれに応答してしまったのです。

4:18 義人の道は、あけぼのの光のようだ。いよいよ輝きを増して真昼となる。4:19 悪者の道は暗やみのようだ。彼らは何につまずくかを知らない。

これが、信仰によって義と認められた者たちの道です。御霊によって、日々、栄光から栄光へと主の似姿に変えられます。もちろんその道程は険しい部分もありますが、その険しさの中でさえ、確かに光が輝きます。そして最終的に、新天新地において義人として輝くのです。「黙示 22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。」ですから、これが私たちの信仰による幻です。自分の終わりはどうなるのか？それは、神の栄光を見て、その栄光をもって輝くということでもあります。

3B 全人の心遣い 20-27

4:20 わが子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。4:21 それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。4:22 見いだす者には、それはいのちとなり、その全身を健やかにする。4:23 力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

午前礼拝でも話しましたが、20 節から 27 節は、私たちの体の全器官を用いて主の知恵に留まることを教えています。まず、「耳」です。私たちは何を聞いているのか、それによって知恵を得ることができます。イエス様は、「聞く耳のある者は、聞きなさい。」と言われました。そして、「目」があります。私たちの目が、いつも何を見ているのでしょうか？目によって全身が明るくなる、という言葉をイエス様は言われました。

そして、「心」です。心が目や耳、足、口など、すべて命の源泉になっています。心で愛している

事柄が、目に留まります。耳に入ってきます。そして、そのほうに足が向かいます。何人かの方に、私が整体に通っている話をしましたが、整体師の方に私が教会の牧師であることを伝えました。そしてキリスト教のことをたくさん話しました。この前、その方が、自分の家の近くに複数、教会があることに気づいたそうです。もし、私と話していなかったら、その存在さえも目に留まらなかったでしょう、心にあるものから、目や耳、足、口の動きが変わってきます。

4:24 偽りを言う口をあなたから取り除き、曲がったことを言うくちびるをあなたから切り離せ。4:25 あなたの目は前方を見つめ、あなたのまぶたはあなたの前をまっすぐに見よ。4:26 あなたの足の道筋に心を配り、あなたのすべての道を堅く定めよ。4:27 右にも左にもそれではならない。あなたの足を悪から遠ざけよ。

「口」についての戒めです。口は、偽りを取り除きます。そして曲がったこと、つまり不正なことを口から切り離します。私たちは、行いをしなくても、その悪い行いを口で楽しんでいけません。「エペソ 5:3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。」そして、目については、自分の前をまっすぐに見つめます。私たちが目にしているのは、先ほどの義人の道です。その目標には、主イエス・キリストご自身の栄光があり、そこから目を離さないのです。そして、足については気を配ります。今、どういう道を歩いているのか、自分の行動について、その歩いているところについて気を配り、それから堅く定めます。揺るがない、ということです。どこに行くのか定まらない、という歩みをしてはいけません。

2A 他国の女 5

そして5章に入ります。5章において、今、ソロモンが息子に語った命令の、具体的な適用を行います。

1B 苦み 1-6

5:1 わが子よ。私の知恵に心を留め、私の英知に耳を傾けよ。5:2 これは、分別を守り、あなたのくちびるが知識を保つためだ。

知恵を心に留めていると、自ずとそこから出てくる言葉が守られます。実はこれは、6章において、保証人になること、誓約をしてしまうという口における失敗を取り扱う時に出てきます。けれども、ここで唇の話をしているのは、次の、他国の女の唇について話すためです。

5:3 他国の女のくちびるは蜂の巣の蜜をしたたらせ、その口は油よりもなめらかだ。5:4 しかし、その終わりは苦よもぎのように苦く、もろ刃の剣のように鋭い。5:5 その足は死に下り、その歩みはよみに通じている。5:6 その女はいのちの道に心を配らず、その道筋は確かでないが、彼女はそれを知らない。

「他国の女」ですが、つまり神との契約を知らない、イスラエルの民ではない女です。主は、御民に「姦淫をしてはならない。」と命じられました。しかし、その女はそんな律法など知らず、平気で男たちをくどきます。ここで大切なことは、「蜜のように甘いものが、苦よもぎのように苦くなる。」ということです。その瞬間は感情や感覚が高まりますが、その後が悲惨になるということです。知恵ある者は、これを行なえばどういうことになるか、その結末を前もってわきまえて、それで今、その瞬間の喜びを選び取らない、ということでもあります。

2B 損失 7-14

5:7 子どもらよ。今、私に聞け。私の言うことばから離れるな。5:8 あなたの道を彼女から遠ざけ、その家の門に近づくな。5:9 そうでないと、あなたの尊厳を他人に渡し、あなたの年を残忍な者に渡すだろう。

先に言いましたように、目を向けない、なめらかな口を耳で聞かない、そしてそうしたところに足を向けない、ということです。今、私たちは大きな挑戦を受けています。物理的に足を向けることができなくとも、たったワンクリックで、相手から自分の部屋に入ってくるができるからです。インターネット・ポルノです。あるいは、出会い系サイトです。米国で著名なキリスト教指導者、ジョッシュ・マクドエルは、”Just 1 Click Away”というサイトを立ち上げています。たったワンクリックで、その後は破滅の道が待っているという意味であり、インターネット・ポルノ中毒からの脱却や警鐘活動を行っています。

ここで注目したい言葉は、「尊厳」です。しばしば、ポルノや売春などの問題を取り扱う時に、そこで侵される女性の人権、あるいは尊厳については多く語られます。しかし実は、男性も逸脱した性行為によって、その尊厳が失われてしまうことを次から見ることができます。

5:10 そうでないと、他国人があなたの富で満たされ、あなたの労苦の実は見知らぬ者の家に渡るだろう。5:11 そして、あなたの終わりに、あなたの肉とからだが減びるとき、あなたは嘆くだろう。5:12 そのとき、あなたは言おう。「ああ、私は訓戒を憎み、私の心は叱責を侮った。5:13 私は私の教師の声に聞き従わず、私を教える者に耳を傾けなかった。5:14 私は、集会、会衆のただ中で、ほとんど最悪の状態であった。」と。

いろいろな側面で、その人の尊厳が失われます。第一に「経済的損失」です。その人の財産が、瞬く間にそのビジネスの中で使い果たされてしまいます。それはパチンコや賭博、麻薬などと同じように、お金が誰か分からない者たちの手に渡ってしまうのです。次に、「肉体的損失」です。自分の肉が減びるとありますが、これは性病のことです。性病によって体が蝕まれ、それで嘆きます。そして、「精神的、霊的喪失」です。自分の感情と精神が良心の呵責で苛まれます。それから、霊的に惨めになります。会衆の真ん中で、ほとんど最悪の状態だと言っています。聖なる御霊の住まわれる神殿において、その集まる民の中で、自分がそこにいることはできなくなるのです。そし

てコリント第一 5 章では、悔い改めない不品行な者は、教会では取り除かないといけないことを、コリント第一でパウロは教えています。

3B 祝福された泉 15-23

5:15 あなたの水ためから、水を飲め。豊かな水をあなたの井戸から。5:16 あなたの泉を外に散らし、通りを水路にしてよいものか。5:17 それを自分だけのものにせよ。あなたのところにいる他国人のものにするな。5:18 あなたの泉を祝福されたものとし、あなたの若い時の妻と喜び楽しめ。5:19 愛らしい雌鹿、いとしいかもしかよ。その乳房がいつもあなたを酔わせ、いつも彼女の愛に夢中になれ。5:20 わが子よ。あなたはどのようにして他国の女に夢中になり、見知らぬ女の胸を抱くのか。

ここは、性に対するとても大切な教えが隠されています。15 節は「あなたの水ため」とありますが、これは自分の妻のことです。それは「豊かな水」と形容されています。そして 16 節の「あなたの泉」とは、自分自身の性のことです。自分の性というのは、いのちの泉のように、そこに尊厳があります。先ほど、心がいのちの源水として書かれていましたが、それを自分の妻が受け取ることによって、ますますその水ためや井戸が豊かにされます。しかし、それを他国の女に使うのは外にその水を散らすことであり、通りを水路にしてしまうことです。自分の尊厳が失われます。

日本には、「男の甲斐性」という言葉があります。男が浮気をしたり、女遊びをすると、言い訳をしてその言葉を使います。我々日本の男性は心のどこかに、一人の女、妻だけに自分の性を使うより、ちょうど大酒を飲んでも平気な男のように、複数の女性を持っていることが男らしいとしています。しかし、これは嘘です。男は薄々わかっています。自分一人の妻で満足しないのは、男として弱さであり、強さではないということです。単なる肉体の生理的現象ではなく、自分の生活すべてに命と力と密接に結びついているのです。

5:21 人の道は主の目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を配っておられる。

ああ、なんと大事な言葉でしょうか！自分の進んでいる道は、主の前でいつも明らかです。私たちはどんなに隠れて物事を行なっても、主はそのすべてを見ておられます。そして、ただ見ておられるだけでなく、心を配っておられます。ですから、自分が悩んでいるということであれば、それを主の前に持っていけば、主は心を配っておられるのですから、必ず逃れの道を備えてくださいます。大事なものは、罪によって傷ついた心をそのまま主の前に持ってくることです。主は、その深い憐れみによって必ず受け入れてくださいます。決して、ご自分のところに来る人を拒みません。主のところに行けば、主がその傷をご自分の体に受けてくださり、そして自分の体の中で、魂の中で、傷の治癒を行なってくださいます。

5:22 悪者は自分の咎に捕えられ、自分の罪のなわにつながれる。5:23 彼は懲らしめがないた

めに死に、その愚かさが大きいためにあやまちを犯す。

咎や罪に捕えられる、つながれるという言葉は、まさにその通りです。自分は自分の欲望について制御できていると思っていますが、必ず虜になっています。何かの中毒、お酒であれ、タバコであれ、麻薬であれ、賭博であれ、中毒になっている人は、「自分はこれを最後にしてやめることができる。」と思って、継続してやってしまいます。

3A 主の心がけておられる問題 6

そして6章に入ります。20 節から再び、姦淫の罪についてソロモンは教えますが、その前に 1 節から 5 節までは保証人について、6 節からは怠惰という問題、それから 12 節から争いを引き起こす者についての戒めです。

1B 保証人 1-5

6:1 わが子よ。もし、あなたが隣人のために保証人となり、他国人のために誓約をし、6:2 あなたの口のことばによって、あなた自身がわなにかかり、あなたの口のことばによって、捕えられたなら、6:3 わが子よ、そのときにはすぐこうして、自分を救い出すがよい。あなたは隣人の手に陥ったのだから、行って、伏して隣人にしつこくせがむがよい。6:4 あなたの目を眠らせず、あなたのまぶたをまどろませず。6:5 かもしかが狩人の手からのがれるように、鳥が鳥を取る者の手からのがれるように自分を救い出せ。

この保証人のことについて説明します。当時、イスラエルにおいて神は、人に貸す時に利息を付けてはいけないと命じておられました(レビ 25:35-37)。そして、他国人に対しては利息を付けてはいいですが、高利貸しのようなものは禁じられていたようです。しかし、ここではそうした高利貸しのような人のために、連帯保証人になったという状況です。神は、貸し借りの中に人をがんじがらめにし、奴隷状態に陥らせる潜在を見ておられたので、貸し借りの利息を禁じられていました。けれども、これは他国人のために手を打ってしまった誓約です。このままでは、自分自身が債務者として借金地獄になります。箴言には、何度となく保証人の話題が出てきています。当時、しばしば起こっていた社会問題だったのでしょう。

私たちの社会でも、このようなことはしばしば起こりますね。友人から願われて、連帯保証人になることはよくあります。そうでなくとも、若い人であれば、友人からの誘いで軽々しく誓約してしまうかもしれません。ある組織の会員になったりして、実はそれが脱会もできないようなインチキ商売だったということもあるでしょう。後に負わなければいけない責任を考えずして、軽々しく約束してしまうのです。若者には「知識と思慮を得させるため(1:4)」であると、書いてありました。思慮を身につける必要がありますね。このような時は、しつこくせがみ、何とかしてその誓約を破棄してもらいなさいとソロモンは教えています。

2B 怠惰な者 6-11

6:6 なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得よ。6:7 蟻には首領もつかさも支配者もないが、6:8 夏のうちに食物を確保し、刈り入れ時に食糧を集める。6:9 なまけ者よ。いつまで寝ているのか。いつ目をさまして起きるのか。6:10 しばらく眠り、しばらくまどろみ、しばらく手をこまねいて、また休む。6:11 だから、あなたの貧しさは浮浪者のように、あなたの乏しさは横着者のようにやって来る。

若い者のもう一つの特徴は、「時間を無駄に費やしてしまう」ことです。ずっと昼まで似ているというのに象徴されますが、無目的に時間を過ごしてしまいがちです。それで、将来のための今の時間を過ごすことをソロモンは教えています。この前、実家に戻って姉の家族とご飯を食べる時がありました。姉の旦那さんは、私とほぼ同じ世代の方ですが、「当時は、大学の授業は単位を取るためだけのものだったが、今は学習のために行ってみたいと思う。」と話しておられました。同じ世代なので私と同じ感覚です。若い時にしかできないことがたくさんあります。実は若い時に、その後の数十年を決定づけるものがたくさんあります。若い時にしかできないのです。

3B 争いを引き起こす者 12-19

6:12 よこしまな者や不法の者は、曲がったことを言って歩き回り、6:13 目くばせをし、足で合図し、指でさし、6:14 そのねじれた心は、いつも悪を計り、争いをまき散らす。6:15 それゆえ、災害は突然やって来て、彼はたちまち滅ぼされ、いやされることはない。

6 章は、1 節からここまで、何か一つの傾向を教えているような気がします。それは、「思慮のなさ」でしょうか。思慮がないので、軽々しく誓ってしまいます。また、思慮がないので毎日の生活を無目的に過ごしてしまいます。そして、そのような怠惰な心は、ここに書かれてあるような不法や曲がったことを行います。

新約聖書の中にも、教会の中で、時間を持て余して周りにおせっかいをかけ、要らぬ争いを引き起こしている場面が出てきます。怠けることと、不法を行なうことは関連しています。テサロニケ人への手紙第二に、教会が出してくれる、お金に頼って仕事をしない者たちのことです。「ところが、あなたがたの中には、何も仕事をせず、おせっかいばかりして、締まりのない歩み方をしている人たちがあると聞いています。こういう人たちには、主イエス・キリストによって、命じ、また勧めます。静かに仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。(3:11-12)」またテモテに対しても、彼が牧会している教会で、若いやもめの問題がありました。「そのうえ、怠けて、家々を遊び歩くことを覚え、ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話してはいけないことまで話します。(1テモテ 5:13)」きちんと働くことまた家事を行なうことは、収入の糧を得るということだけでなく、悪い事を行なわない予防にもなります。

6:16 主の憎むものが六つある。いや、主ご自身の忌みきらうものが七つある。6:17 高ぶる目、

偽りの舌、罪のない者の血を流す手、6:18 邪悪な計画を細工する心、悪へ走るに速い足、6:19
まやかしを吹聴する偽りの証人、兄弟の間に争いをひき起こす者。

これは 12 節からの争い好きな者たちの特徴であります。なぜ争いが兄弟の間で出てくるのか、その原因を列挙しています。すべてが、主が憎んでおられるもの、忌み嫌っているものです。第一に挙げられるもの、筆頭は「高ぶる目」です。争いを引き起こしている時、人は高ぶりに満たされています。テモテが牧会していたエペソにある教会は、この問題でテモテが悩んでいました。パウロが彼を励ましています。「違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと敬虔にかなう教えとに同意しない人がいるなら、その人は高慢になっており、何一つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、そしり、悪意の疑りが生じ、また、知性が腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人たちの間には、絶え間のない紛争が生じるのです。しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。(1テモテ 6:3-6)」

そして「偽りの舌」とあります。これは、必ずしも明らかな嘘ということではありません。語っていることが、行なっていることとまるで違う、偽善のことを話しています。そして、「罪のない者の血を流す手」ですが、人をことさらに引き落とすことによって、自己顕示をしようとします。そして、「邪悪な計画を細工する心」は、神のご計画に故意に反対する計画を立てることです。そして、「悪へ走るに速い足」というのは、いつもその人が行く所は、なぜか悪のところ、災いのあるところという行動です。そして、「まやかしを吹聴する偽りの証人」とはあからさまな嘘、中傷ですね。

そして、「兄弟の間に争いをひき起こす」ということですが、嘘によって人々を煽り、それで争いを引き起こします。これは、マスコミやインターネットでしばしば起こっていることです。人が言っていないことを、言ったものとして吹聴します。言葉の一部だけ切り貼りして、その真意と正反対のものとして伝えます。そこでそれに驚いた人々が、それはおかしいと憤って、それで互いに対立します。私たちの神は平和の主です。そして兄弟を一致させる神です。ですから、争いを忌み嫌われます。

4B 姦淫の代償 20-35

そして 20 節から姦淫の問題に再び戻ります。先ほどは「見知らぬ女」、つまり遊女のような人との関係でしたが、次は見知らぬ女だけでなく、その女は「他人の妻」だということです。

6:20 わが子よ。あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教えを捨てるな。6:21 それをいつも、あなたの心に結び、あなたの首の回りに結びつけよ。6:22 これは、あなたが歩くとき、あなたを導き、あなたが寝るとき、あなたを見守り、あなたが目ざめるとき、あなたに話しかける。6:23 命令はともしびであり、おしえは光であり、訓戒のための叱責はいのちの道であるからだ。6:24 これはあなたを悪い女から守り、見知らぬ女のなめらかな舌から守る。

再び父と母から子への命令として書いています。自分が心と首に結びつけているならば、いつでもその命令が自分を見守り、話しかけるといいます。御言葉を聞くだけでなく、実践しなさい、鏡を見てそれから忘れるような人ではなく、いつも見て、それを行なう人になりなさい、というのはヤコブの勧めです。そしてこれは、聖霊によって可能です。どうか、聖霊を求めてください。イエス様は約束されました、「ヨハネ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

6:25 彼女の美しさを心に慕うな。そのまぶたに捕えられるな。6:26 遊女はひとかたまりのパンで買えるが、人妻は尊いいのちをあさるからだ。6:27 人は火をふところにかけ込んで、その着物が焼けないだろうか。6:28 また人が、熱い火を踏んで、その足が焼けないだろうか。6:29 隣の人の妻と姦通する者は、これと同じこと、その女に触れた者はだれでも罰を免れない。

26節は、「遊女はひとかたまりのパンにまで貶められる」と訳すこともできます。つまり、女を買えば自分の財産がパンのひと塊にまでなってしまう、と考えることもできます。これも悲惨です。しかしもっと悲惨なのは、自分の命が取られることです。その夫に殺されることを示唆しているのでしょう。そして、それを、火を自分の体の中に入れるようなものだと形容しています。

6:30 盗人が飢え、自分の飢えを満たすために盗んだとしたら、人々はその者をさげすまないであろうか。6:31 もし、つかまえられたなら、彼は七倍を償い、自分の家の財産をことごとく与えなければならぬ。

自分が、財産がないので盗んでも、結局は、七倍の償いを支払わなければならない、かえって損をするのです。ですから、「何をやっているのだろうか。」と人々から蔑まれます。他人の妻はなおさらのことです。自分自身を滅ぼすことになるので、そのしていることは全く無意味なのです。

6:32 女と姦通する者は思慮にかけている。これを行なう者は自分自身を滅ぼす。6:33 彼は傷と恥辱とを受けて、そのそしりを消し去ることができない。6:34 嫉妬が、その夫を激しく憤らせて、夫が復讐するとき、彼を容赦しないからだ。6:35 彼はどんな償い物も受けつけず、多くの贈り物をして、彼は和らがない。

結婚は男女を一つにするものです。その一体となった絆の中に、自分が入り込んだことになりました。その嫉妬がどんなに大きいものか、姦淫を犯した者は初めに想像していなかったでしょう。このことを行なったらどういうことになるのか、それを先んじて考えるのが「思慮」と言います。

4A 言葉巧みな女 7

そして7章では、さらに姦淫の道をソロモンが実際に見た、一人の若い男を取り上げて、その愚

かさを描いています。

1B 知恵への親しみ 1-5

7:1 わが子よ。私のことばを守り、私の命令をあなたのうちにたくわえよ。7:2 私の命令を守って、生きよ。私のおしえを、あなたのひとみのように守れ。7:3 それをあなたの指に結び、あなたの心の板に書きしるせ。7:4 知恵に向かって、「あなたは私の姉妹だ。」と言ひ、悟りを「身内の者。」と呼べ。7:5 それは、あなたを他人の妻から守り、ことばのなめらかな見知らぬ女から守るためだ。

同じような勧めです。命令を自分の身に付けよと命じています。そして、これを姉妹としなさいとまで言っています。知恵を女性として描いているのですが、それと他人の妻を対比しているのです。

2B よみへの道 6-27

7:6 私が私の家の窓の格子窓から見おろして、7:7 わきまえない者たちを見ていると、若者のうちに、思慮に欠けたひとりの若い者のいるのを認めた。7:8 彼は女の家への曲がりかどに近い通りを過ぎ行き、女の家の方に歩いて行った。7:9 それは、たそがれの、日の沈むころ、夜がふける、暗やみのころだった。

これまでソロモンが語っていたことです、わきまえないな、思慮にかけた若者、こうした者が女のほうに言って何をするかを語っています。彼は、日の沈むころに、女の家があるようなところで歩いていました。まずここから知恵がありません。知恵は、そうした道から離れなさいと教えます。そしてそのような時間に、暗いときにそうしたものに近づくことに知恵の無さを示しています。

7:10 すると、遊女の装いをした心にたくらみのある女が彼を迎えた。7:11 この女は騒がしくて、御しにくく、その足は自分の家にとどまらず、7:12 あるときは通りに、あるときは市場にあり、あるいは、あちこちの町かどに立って待ち伏せる。7:13 この女は彼をつかまえて口づけし、臆面もなく彼に言う。7:14 「和解のいけにえをささげて、きょう、私の誓願を果たしました。7:15 それで私はあなたに会いに出て来たのです。あなたを捜して、やっとあなたを見つけました。

和解のいけにえという、宗教まで使って彼をくどいています。しかし、これが彼女のしていることを正当化しません。

7:16 私は長いすに敷き物を敷き、あや織りのエジプトの亜麻布を敷き、7:17 没薬、アロエ、肉桂で、私の床をにおわせました。7:18 さあ、私たちは朝になるまで、愛に酔いつぶれ、愛撫し合って楽しみましょう。7:19 夫は家にいません。遠くへ旅に出ていますから。7:20 金の袋を持って出ました。満月になるまでは帰って来ません。」と。

「愛」と言っていますが、これは「情欲」と呼びます。そして、そこに愛はありません。売春をしてい

る女が、男に対して愛を抱くことはまずありません。非常な嫌悪感を持っているでしょう、憎しみさえ持っているでしょう。愛は相手の人格を認め、それを尊ぶところから始まります。

7:21 女はくどき続けて彼を惑わし、へつらいのくちびるで彼をいざなう。7:22 彼はほふり場に引かれる牛のように、愚か者を懲らしめるための足かせのように、ただちに女につき従い、7:23 ついには、矢が肝を射通し、鳥がわなに飛び込むように、自分のいのちがかかっているのを知らない。

自分がどのようになってしまっているのか、彼は知りません。サムソンもそうでした、女にくどかれ、自分の力の秘密を話し、髪の毛を切られました。それで、自分がどうなってしまっているのかわからないままで、ペリシテ人と戦おうとしたのです。

7:24 子どもらよ。今、私に聞き従い、私の言うことに心を留めよ。7:25 あなたの心は、彼女の道に迷い込んではいけません。その通り道に迷ってはなりません。7:26 彼女は多くの者を切り倒した。彼女に殺された者は数えきれない。7:27 彼女の家はよみへの道、死の部屋に下って行く。

ここでの要点は、「迷い込んではいけません」ということです。言い方を変えれば、まっすぐに歩け、その道避けよ、ということ。情欲に対する戦いは、「避ける」あるいは「逃げる」ことによって可能です。「2テモテ 2:22 それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」ヨセフが正しい行動を取りました。ポティファルの妻が彼を誘った時に、彼は逃げました。

性的な罪は、本当に身近な問題です。私たちはこの内容を語るのをなるべく避けたい、当惑するし、恥ずかしいという思いが出ます。けれども、これはタブー視できません。日本はポルノ産業で第二位を占めていますし、公の場所で見せてはならない画像が巷にありふれています。そして女性の服装には、男の性的興味を引き出すようなデザインが増えています。そして、この波が教会にも押し寄せています。多くの人が性的罪で倒れています。牧師たちもその中に含まれます。感情というの、歪んだ関係に発展するきっかけを作ります。クリスチャンの親切が恋愛と勘違いするのです。ソロモンの語る戒めは、決して他人事にしてはならないものです。しっかりと首に結び、指につけて、いつも思い出して、こうしたものを避けなければいけません。